

平成 23 年 11 月 10 日

各位

会社名 株式会社 新生銀行
代表者名 代表取締役社長 当麻 茂樹
(コード番号 : 8303 東証第一部)**平成 24 年 3 月期 中間期決算について**
～中期経営計画 2 年目、『反転攻勢』へ向け順調な業績～

当行の、平成 24 年 3 月期中間期の連結中間純利益は、前年同期比 34 億円増加し 203 億円となりました。キャッシュベース連結中間純利益¹は、前年同期比 29 億円増加し 256 億円となりました。また、平成 24 年 3 月期中間期の単体中間純利益は、前年同期比 47 億円減少し 45 億円となりました。

ハイライト

- ◇ 当第 2 四半期に金融市場の低迷による株式の減損があったものの、昨年来推進してきた収益力の底上げ、徹底した経費削減、ノンコア資産削減や消費者金融ファイナンス業務における債権の良質化の進展などによる与信関連費用の圧縮などにより業績は堅調に推移し、前年同期比増益。
- ◇ 引き続き各業務分野において営業基盤の強化に取り組み、①消費者金融ファイナンス業務における残高減少ペースの鈍化、②住宅ローン新規実行の着実な積み上げ、③不動産ノンリコースファイナンスの新規実行の積み上げ、④中堅中小企業の貸出先社数の増加と貸出残高の反転、などから貸出をはじめとする営業資産残高は底入れの兆し。
- ◇ ノンコア資産の削減も計画を前倒しで達成し、非経常的な損益要因も減るなど収益力の安定化は着実に進展。
- ◇ 良質な資産への入れ替えを継続的に実施し、不良債権残高、比率とも低下、資産の質は改善。
- ◇ 連結自己資本比率、Tier I 比率は、着実な利益計上などにより大幅に上昇。引き続き流動性も十分な水準を確保。

代表取締役社長 当麻からのメッセージ

「当中間期は、欧州の債務危機や国内外の不安定な経済動向を反映した金融市場の低迷をはじめ、厳しい業務環境でありましたが、中期経営計画 2 年目の当年度中間期は、法人、個人向け業務ともに『反転攻勢』へ向け順調な業績となりました。また、顧客基盤の再構築へ向けた努力も徐々に実りつつあり、貸出残高底入れの手応えも掴みつつあります。10 月からは、健全な個人向け無担保ローン市場の形成へ向け、銀行本体での「レイク」ブランドを使った本格的な個人向け無担保ローンの提供を開始しましたが、まずは順調な滑り出しとなりました。引き続き、当行ならではの特色や強みを活かしつつ、お客さま、そして社会のご期待にお応えし、当行グループ役員一丸となって企業価値向上へ向けた不断の努力を継続してまいります。」

決算の概要

- ◇ **業務粗利益**は、コア業務は堅調に推移したものの、ノンコア資産などの削減ならびに消費者金融ファイナンス業務の貸出残高の減少による資金利益の減少と、金融市場の低迷による有価証券の減損や、前中間期に計上した劣後債買戻益などが当中間期にはなかったことによる非資金利益の減少などから、前年同期比 500 億円減少し 1,056 億円。
- ◇ **経費**は、各業務分野における徹底した合理化の継続により人件費、物件費ともに削減した結果、前年同期比 94 億円減少し 633 億円。
- ◇ **与信関連費用**²は、前期までに行った保守的・予防的な引当金の計上や、ノンコア資産の圧縮、消費者金融ファイナンス業務における貸出残高減少と債権の良質化進展による与信関連費用の大幅な減少などにより、前年同期の 523 億円から 88 億円に大幅に減少。今年度から加算された償却債権取立益 59 億円を除いても 147 億円と前年同期比大幅減。
- ◇ **連結中間純利益**は前年同期比 34 億円増加し 203 億円。新生フィナンシャル、シンキ、アプラスフィナンシャル、昭和リースなど各子会社とも順調に黒字決算。
- ◇ **単体中間純利益**は、金融市場の低迷による株式の減損(当第 2 四半期)などもあり前年同期比 47 億円減少し 45 億円。
- ◇ **総資産**は主に国債の減少から前期末比減少し 8 兆 9,405 億円となったが、貸出金は消費者金融ファイナンス子会社で減少する中、銀行本体では法人向け貸出、住宅ローンなどを着実に実行したことから、3 月末以降の減少幅は縮小し、4 兆 1,255 億円。

資本および流動性

- ◇ 自己資本比率は、Tier II 資本は資本算入額の減算により減少したものの、利益の着実な積み上げにより Tier I 資本が増加し、リスクアセットの減少(6.6 兆円から 6.2 兆円)と相俟って、平成 23 年 9 月末の連結自己資本比率は 10.46%、Tier I 比率は 8.74%と、それぞれ 0.70 ポイント、0.98 ポイントと大幅に上昇。
- ◇ 不良債権残高は每期着実に減少し、不良債権比率は 5.96%と 3 月末比 0.82 ポイント低下。保全率は 97.0%と業界有数の高い水準を維持。
- ◇ 流動性は十分に確保し、平成 23 年 9 月末現在の手元流動性は約 1.0 兆円と引き続き充分高い水準。

平成 24 年 3 月期通期業績予想

- ◇ 通期業績予想に対する進捗率は高いが、国内外の不透明な経済動向が引き続き継続すると考えられ、現時点で合理的な見積もりに基づく見通しを立てるのは極めて困難であることから、平成 23 年 5 月 12 日に公表した連結当期純利益予想 220 億円、キャッシュベース¹連結当期純利益予想 320 億円、単体当期純利益予想 150 億円などの見直しは控える。

¹ 純利益(または純損失)からのれんに係る償却額及び企業結合に伴う無形固定資産償却とそれに伴う繰延税金負債取崩を除いたもの。

² 今年度から「金融商品会計に関する実務指針」(会計制度委員会報告第 14 号 2011 年 3 月 29 日)を適用することにもない、与信関連費用に償却債権取立益を合算。ただし、過去への遡及はせず。

平成 24 年 3 月期中間期決算の要点、概要は以下のとおりです。
 (特段の注記がない限り、以下内容は連結ベースで記載しております)

平成 24 年 3 月期中間期業績の要点

(単位: 億円、%)

	平成24年3月期 中間期(6か月)	平成23年3月期 中間期(6か月)	増減率
業務粗利益	1,056	1,556	△32.1%
経費	633	728	△13.0%
経費率	60.0%	46.8%	-
実質業務純益	423	828	△48.9%
与信関連費用	88	523	△83.2%
中間純利益	203	168	20.5%
キャッシュベース中間純利益 ¹	256	227	12.9%
1株当たり中間純利益 ²	7.66円	8.59円	△10.8%
同キャッシュベース(円)	9.67円	11.57円	△16.4%
ROE(年換算ベース)	7.3%	7.4%	-
キャッシュベースROE(年換算ベース)	9.2%	9.9%	-
ROA(年換算ベース)	0.4%	0.3%	-
キャッシュベースROA(年換算ベース)	0.5%	0.4%	-
(単体)業務粗利益	383	702	△45.5%
(単体)経費	274	300	△8.7%
(単体)実質業務純益	108	402	△73.0%
(単体)与信関連費用	28	313	△90.9%
(単体)中間純利益	45	93	△50.8%
	平成23年9月末	平成23年3月末	増減率
総資産	89,405	102,315	△12.6%
リスクアセット	62,033	66,537	△6.8%
1株当たり純資産	214.07円	205.83円	4.0%
自己資本比率(バーゼルII、F-IRB)	10.46%	9.76%	0.70ポイント
Tier I 比率	8.74%	7.76%	0.98ポイント
金融再生法上の開示不良債権比率(単体)	5.96%	6.78%	△0.82ポイント
金融再生法上の開示不良債権の保全率(単体) ²	97.0%	96.8%	-

¹ 中間純利益からのれんに係る償却額及び企業結合に伴う無形固定資産償却額とそれに伴う繰延税金負債取崩額を除いたもの

² 金融再生法上の開示不良債権の保全率 = 貸倒引当金および担保・保証等による保全額の合計 / 開示不良債権額

当中間期決算の詳細については、以下当行 URL(「決算・財務情報」メニューの中の「四半期決算情報」)をご覧ください。

URL : http://www.shinseibank.com/investors/ir/financial_info/quarterly_results/

以上